※令和４年度以降入学生用

学校番号	１１０

令和８年度　芸能文化科

教科	芸能文化	科目	舞台映像技術（舞台美術）	単位数	２単位のうちの１単位	年次	３年次
使用教科書	なし						
副教材等	自主教材プリント						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

舞台美術で製作されたものは、〝大道具〟として舞台やスタジオを飾ります。大道具は「製作」と「設営」に分かれますが、前期は製作のなかの「タタキ」を、後期は「作画」を学びます。
設営については発表会等と連携して年間を通して学びますが、“舞台用語〟として、集中的に学ぶ時間もあります。

2　学習の到達目標

（1）　講師の指導のもと、舞台に必要なセットの重要性を知ることをめざす。

（2）　各作品ごとに効果的な舞台セットがどういうものかを判断して創作できる力を身につけることをめざす。

（3）　縁者を含めた総合芸術の一角である舞台セットを主体的に製作したり、積極的にチームメイトとディスカッションできる力を身につけることをめざす。

※令和４年度以降入学生用

３　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
点の趣旨	何より大切なことは安全についての意識である。習った知識・技能を使うに当たっては、安全意識の上に構築された計画でなければならない	（安全に対する意識を持った上で）習ったことを生かせているか。習ったことを応用するまでの意識があるか。	生徒自身が発揮する主体的行動は大切である。しかし安全意識が低い「やる気」は「暴走」と同じで、事故やけがに繋がる。冷静な見通しを持った計画か否かが評価の対象となる。
上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。			

４　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
前期	舞台美術（タタキ）	角材や合板等を加工する工具(指金･鋸･金槌･コンベクス･ドリル等)についての知識と、それらを使った工作技能を学ぶ。	a:工具と材料を正しく扱えるか。 b:安全で正確な作業を行えるか c:工具と工作物を丁寧に扱えるか	授業観察と発問。 筆記試験	作品の採点	授業観察
後期	舞台美術（作画）	背景画の一部分(レンガ･石垣･木目　等)を取り上げ、その作画技法を学ぶ。	a:作画に関する専門用語や、基礎的な技法を理解しているか。 b:学んだことを生かし、応用できるまでになっているか。 c:授業の準備と後片付け。工具。道具の扱い。	レポートと作品の採点	レポートと作品の採点	授業観察

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度